

コミュニティ だより

徳島市
徳島市コミュニティ協議会
徳島市幸町2丁目5番地
〒770-8571
TEL(088)621-5510
FAX(088)621-5511



徳島市長 原 秀樹



明けましておめでとございます。
新しい年を穏やかに迎え
のことと謹んでお慶び申しあ
げます。

皆さま方には、日頃より、
コミュニティ活動に深いご理
解と多大なるご尽力をいただ
き、厚くお礼を申しあげます。
さて、ご承知のとおり、我
が国の全ての自治体が、人口

減少と地域経済縮小を克服す
るため、「地方創生」への取
り組みを強力に推し進めてい
るところでございます。

本市におきましても、地方
創生という大きな潮流の中で、
激化する地域間競争に打ち勝
ち、持続的な発展を遂げてい
くためには、地域が有する固
有の資源や人材など、いわゆ
る「地域力」を活用したまち
づくりを積極的に推進するこ
とが、何よりも重要でござい
ます。

幸い、本市には、豊かな自
然環境や、本市特有の伝統あ
る歴史や文化、さらには、高
い知見と行動力を有する皆さ
ま方のような素晴らしい人材
に恵まれております。

こうした「地域力」を生か
した様々なコミュニティ活動
が展開できるよう、今後とも
各地域のコミュニティセン
ターを拠点として、市民の皆
さまが広く交流し、コミュニ
ティ活動の輪がますます広が
る各種施策を積極的に推進し
てまいる所存でございますの
で、どうか、皆さま方におか
れましては、引き続き、力強

新年の挨拶

徳島市コミュニティ連絡協議会

会長 島田 和男



新年あけましておめでと
うございます。

会員の皆さまにおかれまし
ては、輝かしい新春を迎えら
れたこととご推察いたします。
さて、昨年を振り返ってみ
ますと、ビッグニュースの多
い中、私たちに関係するのは、

いご支援とご協力を賜ります
よう、お願い申し上げます。
結びに、この一年が皆さま
にとりまして実り多い幸せな
年となりませう心からお祈
り申しあげまして、新年のご
挨拶とさせていただきます。



なんといつても日本の歴史の
転換点ともいえる集団的自衛
権を求める「安全保障関連法」
の成立であったのではないで
しょうか。

戦後七十年、平和国家とし
てきた日本が、国是のあり方
さえ変えてしまいかねない岐
路に立ったという方がいます。

世論調査では、反対もしく
は再検討という方が六割を超
えたのも事実でしょう。

政府がいうように、七十年
の間に国際情勢が大きく変化
したのも事実であり、平和を

守るため万全の態勢を整えて
おくべきでしょう。要は軍国
主義または全体主義に戻らな
いように国民一人一人が政治
に関心を持つことだと思いま
す。

もう一点は、自然災害が多
く、大型台風が次々と日本上
陸もしくは接近し、たくさん
の被害をもたらしました。特
に茨城県常総市は大雨による
堤防決壊によって、大被害と
なりました。

災害発生後、避難指示の出
し方、避難経路情報など、い
ろいろな問題点が指摘されて
います。私たちの町において
も、いつ何時このようなこと
が発生するかも知れないほど、
自然環境が悪化しています。
私たちは他人事とみないで、
いつも町の責任者としての自
覚を持ち、対応策を考えてい
かなければならないのではな
いでしょうか。私たちの町は
私たちが守っていかなければ
ならないと思っています。

最後になりましたが、皆々
さまにとりまして
幸多き年になりま
すようご祈念申し
あげ、新年の挨拶と
致します。





島田会長

平成二十七年十月一日に開催された置市記念式典において、多年にわたり市政や市の発展に寄与されたとして、徳島市コミュニティ連絡協議会会長島田和男氏が市政功労者として表彰されました。

市政功労者表彰 及び 地域貢献高齢者顕彰

また、同式典において、徳島市地域貢献高齢者顕彰制度に基づき、日頃から地域コミュニティ活動に貢献されている方々に対し、原秀樹市長から感謝状の贈呈が行われました。

市長からの祝辞の後、顕彰者を代表して渭北街づくり協議会の大石正氏より謝辞が述べられました。顕彰されたのは次の方々です。

内町まちづくり協議会

山内 鐵士

新町コミュニティ協議会

長尾 愛子

西富田コミュニティ協議会

矢野トシエ

東富田コミュニティ協議会

小柏 登洋

昭和コミュニティ協議会

松下 昭

住吉・城東地区町づくり協議会

濱田 常雄

渭北街づくり協議会

大石 正

佐古コミュニティ協議会

小椋 貞和

沖洲コミュニティ協議会

板東志津子

津田コミュニティ協議会

吉村 文夫

加茂名まちづくり協議会

小椋 健司

加茂コミュニティ協議会

西 和男

八万町各種団体連絡協議会

露口 玲子

八万中央コミュニティ推進協議会

玉田 順造

八万コミュニティ推進協議会

高瀬 順次

勝占中部コミュニティ協議会

大平 利夫

勝占東部コミュニティ協議会

溝邊 定義

多家良中央コミュニティ協議会

安廣 政一

丈六コミュニティ協議会

仙石 清

上八万コミュニティ連合協議会

横山 智子

上八万まちづくり協議会

河上 治義

一宮下町町づくり推進協議会

福井 利興

入田町まちづくり協議会

細川 一男

不動コミュニティ協議会

富永 和義

川内まちづくり協議会

藤井 信子



地域貢献高齢者顕彰記念 平成27年10月1日

川内南コミュニティ協議会

稲木 壽之

応神町コミュニティ協議会

多田美枝子

南井上コミュニティ協議会

久米 久夫

北井上地区コミュニティ協議会

小川 正二

(以上行政区順)

代表者謝辞

渭北街づくり協議会

大石 正

ご紹介いただきました渭北地区の大石です。

本日は置市一二六周年記念式典において、地域貢献高齢者表彰に際し、受彰者を代表して謝辞を述べさせていただきます。非常にか光栄と思っております。

受彰者の皆さまは、日頃地域におきまして、ご活躍せられ貢献されている方々だと思います。

本年は、戦後七十年の年にあたります。振り返ってみますと昭和は激動の時代であつたと思ひます。



大石様

昭和二十年、徳島に大空襲があり、その戦災のため家を失い、家族の方々が多数亡くなりました。その上、食糧難で一日一日を生き抜くことに精一杯であったと思えます。私は幸運にも戦災の難を逃れました。

その後七十年、健康にも恵まれ、本日この栄に浴することができましたことを心より感謝申し上げます。

不幸にして戦災のため命を落とされました多くの人々に対して、少しでも社会の世のため、人のために何かしなければと思っております。

現在の世相は不安がいっぱいでございます。殺人事件から窃盗、詐欺、放火、交通事故、その上自然災害などの不安の毎日でございます。このような不安を少しでもやわらげるために、私は防火防災活動とか児童の下校時の安全や交通事故防止のため、地域を巡回しております。これは町民の皆さまに安全で、安心して生活できるようなことですが、頑張つて実行しております。これらの活動は町民との絆を強くし

て、地域全体が活性化されることにつながるものと思っております。

終わりにりましたが、徳島市のますますの発展を心

地域の宝、蜂須賀家墓所の清掃

渭北更生保護女性会 奥村 賀津子

私たちの会は「社会を明るくする運動」を目標としています。昭和二十八年に少年保護婦人会として発足。変遷を経て平成十五年に今の名称になりました。この年には、創立五十周年記念誌も発刊しています。



社会を明るくする運動月間の七月一日に会報「更女いほく」を発刊し、昨年で十七号になりました。現在約百五十名の会員で地域の活動をしています。

から折念申しあげまして、お礼のご挨拶といたします。本日はどうもありがとうございました。

渭北地区には、阿波の藩主蜂須賀家の墓所があり、平成十四年に国の文化財に指定されました。渭北更女はこれを契機に、荒れ放題だった墓所を美しい公園にと蘇らせる試みを始めました。地域の小・中学生、教員、保護者、鑑別所保護司、議員などに呼びかけてこの活動を広めました。

昨年は約百五十人の参加を得て、七月末に実施しました。話し声も消されそうな蝉の合唱に励まされ、刈り取った草は山と積まれました。

毎年、阿波踊りはこの墓前の奉納踊りから町へと繰り出されます。踊る人、見る人、そして家政公も楽しんでくれていることでしょう。今では管理人、近所の方々や市公園

緑地課の協力で、とても美しく保たれ、四季折々の花を賞でる人、散歩を楽しむ家族連れ、遠足の子どもたちに愛されています。

渭北の街の「ゆとり」を感じさせる広場として生き続けていくことを願っています。



その他、毎年恒例のチャリティー芸能大会やバザーも行い、東北震災のときには収益の全てを義援金に送りました。それから、街づくり協議会の安全安心パトロール、公民館活動のわくわくクラブ、地域で盛大に行われる文化祭など、多彩な行事に進んで参加させてもらっています。

助任小学校の運動会では、婦人会の有志と三・四年生全員で渭北音頭を踊り、盛り上がりしました。



体育の日に開催される「渭北歩こう大会」は、健康増進を図り、家族や友人とのふれあいに親しむことを目的に、大勢の参加者があり人気です。住みよい渭北地区をいつまでもと願ひ、各種団体が仲良くがんばっています。

(渭北街づくり協議会)

男女共同参画による 避難所運営マニュアル作り

新町コミュニティ協議会



新町コミュニティ協議会では、近年発生が予想される南海トラフ大地震等の大規模災害を想定した市民総合防災訓練を昨年度実施しました。しかし、住民主体で行われた訓練ではありませんが、行政からの指示で取り組ん

だもので、様々な課題や疑問点も発見した訓練でもありました。また、一昨年の徳島市コミュニティ連絡協議会の東日本大震災視察研修報告を受け、災害時の避難所運営の重要性を改めて考えさせられました。
そこで、新町コミュニティ協議会では、今までの訓練等を参考に、また避難所運営について様々な問題を解消できるように新町公民館にて、「男女共同参画による避難所運営マニュアル作り（ワークショップ）」を行いました。新町地区の避難所は、新町小学校に指定されていますが、隣接する新町公民館は眉山の土石流危険地帯として避難所指定はされていません。しかし建物の安全性、周辺の状況を見て安全と判断されれば、福祉避難所として活用してはどうかと考え、運営マニュアルを作ることにしました。二十名が三グループに分かれ、①どのような方を受け入れるか②部屋の割り当てはどうするか③役割分担④ルール作り⑤必要なものは何か、など各グループで活発な意見を出し、まとめてい



きました。
避難所運営で最も重要なことは、避難者の意見が組織に反映されることです。そのため、組織図に男女を同数配置して意見を出し合うことができる環境を作ることが大切です。細かな意見まで聞き入れるよう配慮し、また避難者のストレスを少しでも軽減できる避難所が運営できるような心がけることであると思います。
また、このようなワークショップは、一度だけではなく何度も見直すことが必要です。今回のワークショップをもとに、地域全体に防災啓発活動を広げていきたいと思えます。

本年もよろしく
お願いいたします

- 沖洲コミュニティ協議会 会長 三栖谷高照
- 津田コミュニティ協議会 会長 島田 和男
- 加茂名まちづくり協議会 会長 原田 治郎
- 加茂コミュニティ協議会 会長 大栗 敏治
- 八万町各種団体連絡協議会 会長 松尾 孜
- 八万中央コミュニティ推進協議会 会長 露口 玲子
- 八万コミュニティ推進協議会 会長 福田 紀雄
- 勝占地区コミュニティ連合会 会長 山口 敏
- 勝占中部コミュニティ協議会 会長 稲生 正徳
- 勝占東部コミュニティ協議会 会長 高島 伸一
- 多家良地区連合協議会 会長 下條 敏也
- 多家良中央コミュニティ協議会 会長 開 寛
- 丈六コミュニティ協議会 会長 梅本 辰雄
- 不動コミュニティ協議会 会長 大川 良文
- 入田町まちづくり協議会 会長 森 政雄
- 上八万コミュニティ連合協議会 会長 河上 治義

- 上八万まちづくり協議会 会長 阿部 増江
- 一宮下町づくり推進協議会 会長 祖川 信明
- 川内まちづくり協議会 会長 増金 賢治
- 川内南コミュニティ協議会 会長 河井 宏紀
- 応神町コミュニティ協議会 会長 玉置 勇次
- 国府コミュニティ協議会 会長 藤村 俊治
- 新町コミュニティ協議会 会長 沖野 高穂
- 西富田コミュニティ協議会 会長 小出 雅彦
- 東富田コミュニティ協議会 会長 松ノ内 清
- 昭和コミュニティ協議会 会長 松岡 勤
- 渭東コミュニティ協議会 会長 中嶋 修三
- 住吉・城東地区町づくり協議会 会長 浜田 耕市
- 渭北街づくり協議会 会長 竹田 昌弘
- 佐古コミュニティ協議会 会長 三木 隆清
- 南井上コミュニティ協議会 会長 松島 孝昌
- 北井上地区コミュニティ協議会 会長 前川 俊治
- 内町まちづくり協議会 会長 豊田 雅信

(順不同)

勝占東部東北応援隊

勝占東部コミュニティ協議会
会長 高島 伸一



駒幸夫さんが一昨年の春コミセンを訪ねてこられました。ニューヨーク、出身地の釜石、第二の故郷徳島で活躍されている三味線奏者です。徳島での活動の事務局を論田町においておられる関係でご縁がある方です。

お話によりますと、震災当初から、ボランティアで仮設



杖作りの様子

住宅への演奏慰問をされているそうです。そんな中で、仮設で暮らす人たちが、特にお年寄りの方の姿勢が気になりだしたそうです。狭い仮設住宅では座る生活が多いため、どうしても背筋を伸ばすことが少なく、前屈みの姿勢になってしまおうというのです。そこで、杖をつくことによって(長めの杖の高い位置を持つてもらって)少しでも背筋を伸ばしてもらいたいと思い、仮設の人たちに杖を贈る活動を始めたそうです。

この杖作りに協力してくれ

ないかとのことでした。「ほらええこつちやなあ。」ということになり、遠く離れた徳島の小さな地域でも、東北の人たちの役に立てることがあれば何でもしようとして「勝占東部東北応援隊」を結成しました。

活動参加を広報して集まってくれた皆さん(常にコミュニティ協議会の活動に参加いた

と一緒に参加

そんなある日、地域の方から「杖作るやいうて言いよん。竹はあかんの。竹やったらうちに五三竹がなんぼもあるでよ。」「ほらええわ、切らせてもらうわ」ということで竹の杖を作ることになりました。竹の切り出し作業は、男性陣が中心となって行いました。長さを整えてから油抜き作業です。大神子海岸で許可を得て、流木等を燃やして油抜きしました(ついでに肉も焼いて楽しく)。後は磨いて鈴やテープで装飾して完成です。



竹の切り出し作業

後で分かったのですが、東北には五三竹はないそうで、竹の杖は結構喜ばれたそうです。

完成した杖は宅急便で送り、市役所を通して仮設にお住まいの方に届けられました。

初年度は五百本ほどの杖を贈りましたが、今後も「役に立つことで、できることがあれば何でもしよう」ということで、永く東北応援隊を続けたいと思っております。



油抜き作業





不動小学校 オープンスクールに参加



不動コミュニティ協議会



不動コミュニティ協議会では、毎年十月下旬に開催される不動小学校のオープンスクールに参加をしています。このオープンスクールは、平成十八〜二十年度に文部科学省指定事業「人権教育総合推進地域事業」の一環として開催し、昨年で八回目を迎えました。

前半は、ゲストティーチャー五名が講師となり、各学年で勉強を行います。六年生の教室では不動人権教育推進協議会会長が講師になり、人権問題をテーマに「不動町が抱える部落差別は」について事前に学習したことを発表したり、意見交換を行ったりしています。三年生の教室では、不動



コミュニティ協議会会長が講師になり、不動公民館・コミセンが不動町内でのどのような役割をしているか、地域とのつながりについて話し合います。後半は、地域の人々との交流学習を行っています。一年生は二班にわかれます。ほほえみクラブの人たちが事前学習で作っていた布ぞうりを、マンツーマンで指導し作りあげていきます。昔の遊び班は、婦人会が担当しています。あやとり・お手玉・けん玉・コマ等、最近の子どもたちが遊ばないようなものを一緒に遊んでもらったり、昔の暮らしや生活の知恵などを教えてもらい、子どもたちは関心をもっていました。体育館では

不動公民館・コミセンが中心となり、紙ヒコーキ大会をしています。イカ型紙ヒコーキを折り、飛行距離を競いあいます。みんなが見守る中、一人ひとり飛行機を飛ばします。遠くまで飛んだときは大歓声がおこり、子どもたちと地域の人たちがひとつになれた気が

偶感

名東町一丁目
吉田頭太郎

ある教師から、「学校は勉強するところだから、子どもに清掃などやらせないでほしい。」と親から注文があったと話を聞きました。

それまで学校は当然子どもが掃除するものだと考えていました。小学校では濡れ雑巾で廊下を拭き、大きくなっては、モップを持って廊下や教室を拭いたものです。

「床を磨くことは、心を磨くこと」といわれ、心の修行と受け止め、また、自分の生活の場は、自分の力で快適に維持するの思いから清掃に打ち込み、たまにきれいになっ

がします。このように、不動町内では地域ぐるみで子どもを育て、安全に安心して生活できるよう、みんなで協力しています。今後とも町内一丸となって、さらさら輝く笑顔いっぱい、不動町であり続けたいと思っています。

たと褒められ喜んだものです。

これは、日常、地域の人から、また祖父母から教わる東洋思想、仏教教育に深く根ざしていたのでしょう。心の修行などと大仰なことではなく、この親は掃除が「何のために」するのかその意味がぼんやりしているのでしょう。「何のために」が失われると、子どもも親も「やらされている」という気持ちしか残りません。そこで「やめてほしい」ということになってしまいます。昨今携帯電話やスマホを持つことは当然のようになりました。所構わず、通話やメールができるから便利です。一方、公共の交通機関や公共の場で通話しないでのアナウンスがあるにもかかわらず、平気で通話する人がいます。周りの人は、見てみないふり

をしています。マナーを守っている人も多い。最近では、周りの人の視線にも厳しさが出てきました。

ある日、週刊誌を読んでみるとある作家のコラムに「社会のルールやマナーが分からない人は、社会の責任ではない、その人の親の責任だ」と憂う言葉がありました。

戦後、何世代も経た今日、「社会の責任」「地域の責任」という言葉はよく聞かれるが、「親の責任」「家庭の責任」

という言葉が余り聞かれませんか。何故なのでしょう。子どもの健全な育成は、もはや「家庭だけ」「学校だけ」「地域だけ」では担えきれなくなりま

した。加茂名地域には「加茂名はひとつ」の合言葉があり、言葉の通り家庭、学校、地域がひとつとなり連携を持ちながら、それぞれの立場で責任ある子育てに努められるような環境が整って欲しいものです。

(加茂名まちづくり協議会)

大人気の「木工工作」 一泊研修の中で

八万中央コミュニティ推進協議会

会長 露口 玲子

夏休みの日、園瀬川の親水公園では、大勢の人たちの歓声が聞こえてきます。

お父さん、お母さんと小学生の子どもを合わせて、三人から五人くらいが一つのグループとなって木工工作に一生懸命取り組んでいる様子でした。

八万青少年育成会では、毎

年夏休みの第一回目の土・日を一泊研修といつて、園瀬川の河川敷でキャンプ生活を実施します。八万小学校や八万南小学校の協力を願ひ、在校生の親子に呼びかけて参加者を募集します。

一泊研修では、飯ごう炊さんやいろいろな活動や学習を二日間行います。毎年人気が高



く、大勢の親子が参加します。中でも一番人気は木工工作で、その活動の様子を紹介

します。木工工作は八万中央コミュニティ推進協議会が実施しますが、指導や木材などの材料の購入は「木材買方組合」に、作業の指導はその関係のボランティアの方をお願いしています。

この木工工作は昨年で五年目を迎えました。子どもや親たちは、材料があつて希望する物が作れると評判を伝え聞き、参加してくれるものと思

くれます。

熱心な参加者は自分が作りたい物の設計図を書いて、必要な材料の計算までしている人もいます。中には、子どもの学習机や椅子、本箱や食卓など大きい家具のようなもの、トレーや本立てなど小ぶりの道具類などさまざまです。

どの親子も目を輝かせて、自分の設計にあつた材料を探します。見つけた材料に、自分の設計に合わせて、定規で寸法を測り鉛筆で線を入れま

す。線の入った木を大きい物は機械で切ったり、小さなものは自分で切るなど、それぞれが親子で力を合わせて協力している姿はほほえましい風景でした。一つの作品を作るにはいろいろな工程がありますが、指導者が必要なもの、子どもでも簡単にできる作業など、親子で話し合いをしながら作業をしていきました。朝食が終わった午前九時頃から作業を始めて、途中で昼食のラーメンを食べた後続けましたが、午後二時頃にはすべての親子が完成しました。できあがった作品をそれぞれが持って、集合写真も写しました。

後片づけも親子で協力してゴミを片付けたり、周りを美しく掃除して午後三時にはすべて終了しました。一日の親子での作業でしたが、作品は完成し、親は子どもに直接接することで、お互いの理解も深まるし、気持ちもより通じ合うことができました。

親子を対象に材料を提供して、的確な指導をしながら親子の好ましい関係を作る「木工工作」を計画してくださった組合の皆さま方にお礼を申しあげて、いつまでも子どもや親たちの気持ちよい関係を築ける行事を続けてくださいますようお願いいたします。



「遊山箱」

ゆさんクラブ

主任児童委員 竹内直子

昨年十月十六日に遊山箱（一人暮らしの高齢者のための食事会）が行われました。今回は小学三年生の子どもたちを迎えた交流会でした。「カレーの良いにおいがする。」

と言って、子どもたちが元気に先生とコミセンへ来てくれました。高齢者の皆さんと交互に座って、食事会の始まりです。

メニューは、カレーと青りんごゼリーです。たくさんの子どもがおかわりをしてくださいました。とても嬉しい光景でしたが、ご飯を多めに炊いていたはずが、だんだん残り少なくなり、あわてて追加のご飯を炊きました。



カレーの方は、災害用の大鍋を使い、一気に作ったので、何とか不足せずに済みました。一昨年よりも便利で作りやすかったです。



総勢 80人でカレーライスを「いただきます」

食事が落ち着いた頃に、徳島北警察署の生活安全課の方々による劇が始まりました。いろいろな詐欺による被害を防ぐために、詐欺の巧妙な方法を紹介するものでした。桃

太郎侍風ということで、とてもおもしろく作られています。被害金額を聞いたときは思わず「おおお。」という声が皆から出ました。劇中では二百万円でしたが、実際は二十万円も取られた人もあるそうで、本当に恐いと思いました。今回の劇は、とても良い啓発になったと思うので、北署の皆さまに感謝をしたいと思います。



徳島北署員の熱い演技は、オヒトヨシゾウとサギダ

食事が終了してからは、子どもたちが高齢者の皆さんのために、用意してくれた出し物を見ました。「金子みすず」の詩の朗読や、合唱を聞かせてくれたり、なわとびをして

くれました。よく練習してくれたのがわかる、すばらしいものでした。とても楽しく、有意義な時間が過ごせました。遊山箱に参加した全員が、元気をもらった気がします。



笑顔こぼれる「茶摘み」の手遊び

このような交流会はとてますばらしいことなので、ずっと続けて欲しいと思いました。**(応神町コミュニティ協議会)**



編集後記
城山の古木の梢遥か大海原の水平線に真紅の初日が轟き昇りました。徳島市民を寿ぐ勇姿です。新年おめでとうございませう。

新年にあたり原秀樹徳島市長から抱負が語られ「地域創生」のために、地域固有の資源や人材などの地域力の活用をしたまちづくりの推進を提唱されました。島田コミュニティ連絡協議会長は、地域で地域の町づくりを考え努力すべきだと提唱しています。

このような地域の力強い活動の姿が紙面にみなぎっています。地域貢献高齢者顕彰は地域人材づくりの金字塔です。渭北街づくり協議会・更生保護女性会の蜂須賀家墓地の美化清掃活動は地域の宝です。

新町地区の「男女共同参画による避難所運営マニュアル作り」は具体的に有効な活動で範となるものです。勝占東部の阿波の名竹五三竹の杖作りで東北応援隊の活動は貴い贈り物となりました。

地域ぐるみで子ども作りの不動、八万、応神の活動には未来に繋がる貴重な活動です。

(佐藤義忠 記)